

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

平成27年9月25日

国立大学法人茨城大学長 殿

所属・職名 教育学部・教授

氏名 岩佐 淳一

下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。

サバティカル制度を利用した期間	平成27年5月24日～平成27年9月20日
-----------------	-----------------------

<p>①研究経過について (利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)</p>	<p>5月25日～6月：タイにおけるメディア改革運動に関する文献研究(コミュニティラジオが出現する前提に関する研究)</p> <p>7月：タイにおけるコミュニティラジオに関する資料収集と文献研究</p> <p>8月：スリン県ブアチュート郡およびローイエット県ムアンローイエット郡調査 タイ・ピサヌローク県ナレスワン大学にて開催された国際・カンファレンス「アジアにおける民族～生活・権力・民族性」(コミュニティラジオ関連の発表あり)に参加</p> <p>9月：研究のまとめおよびフォーラム(メナム・フォーラム)での研究成果発表</p>
<p>②研究成果について (目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)</p>	<p>タイにおいて2000年代になぜコミュニティラジオが出現したのか、その背景、理由、置局の展開、放送制度の変遷などを現地資料や調査から全容を理解することができた。</p> <p>9月17日にバンコクで開催されたメナム・フォーラムにて『タイのメディアを考える～メディア改革運動とコミュニティラジオ』というタイトルで2時間の研究発表を行った。本フォーラムはタイ研究者、国際協力事業団、アジア経済研究所、日本大使館、現地駐在日本人等を対象に20年以上も続いている伝統的な研究発表の場である。</p> <p>今後の研究成果の公表については来年度の日本タイ学会で発表を行う。サバティカルが4か月しか取れず、メディア改革運動当事者へのインタビュー調査ができなかった(次回の訪タイ時にインタビュー調査を行う)、その点を補ったうえで日本タイ学会誌『タイ研究』に投稿の予定である。</p>
<p>③その他特記事項 (サバティカル制度に対する意見、今後の希望なども記入して下さい。)</p>	<p>前期授業分を後期に開講するため授業負担が重く、サバティカルの成果をフィードバックする時間が取れない。帰国後に研究成果を取りまとめる期間なども含めたサバティカル制度利用を認めるなど、帰国後の成果発表をきちんとできる体制を整えることは検討の余地があると考えている。</p>